

■ ■ ■ K i t e ? ?

Kite (kait) とび 凧etc.
Society (sasaiati) 交わり 会etc.

英和辞典にはこのように
でています。

カイト・ソサイエティ。つ
まり「歌うとんびの仲間」。
とんびは長野高校の校章…
…「そもそも神武天皇、天
下平定のおり……」なんて
ヤボなことは申すまい。
ふるさと信濃の空高く巡回
しているとんびです。

昭和40年8月 長野高校合
唱班OBによって結成され、
年々仲間を増し、現在まで
会員100余名、毎年春に故郷
長野で演奏会をもって今回
で10回になります。

今後どうぞよろしく
お願いいたします。

事務局 長野市徳間716
堀内征治方 凧430257

- 昭和40年8月 発足
昭和41年4月 3日 第1回定期演奏会
「月光とビエロ」他
昭和42年4月 1日 第2回定期演奏会
「枯木と太陽の歌」他
昭和43年3月29日 第3回定期演奏会
「富士山」他
昭和44年3月30日 第4回定期演奏会
「雨」他
昭和45年3月29日 第5回定期演奏会
「山に祈る」他
昭和46年3月26日 第6回定期演奏会
「莊嚴ミサ」他
昭和47年3月29日 第7回定期演奏会
「智恵子抄」他
昭和48年3月31日 第8回定期演奏会
「走れわが心」他
昭和49年3月28日 第9回定期演奏会
「わが歳月」他



創立10周年記念演奏会を迎えて

カイトが産ぶ声をあげたのは、10年前、夏の聖高原でありました。現役の合宿に参加したO・Bの間から「同じ釜の飯を食い、趣味を分かちあう者同志、これからも続くかぎり連絡を保ち、歌の心を求めていこう。そして後輩の現役の仲間にも、出演の場を与えてやろう」という声がかけて、その翌春、第1回定期演奏会という運びになりました。

曲折10年、第10回記念定期演奏会を迎えるにあたり、あの聖高原の誓いが昨日のこのように想われ、感無量です。カイトのメンバーも毎年卒業生を加える毎に大世帯になってきましたが、社会の流れによるのか、人の考え方も変わってきました。私ども創立当時の心を後輩にどのように伝え、維持していったらよいのか、その対策も十分考えられないまま、今日に至ったような気がします。

カイトは長野市において数少ない男声合唱団の一つとして、市民の心の中へ浸透していきたいという気持ちを持ち、それが毎年の定期演奏会へと結びついていったのですが、メンバーが全国各地に散在しているなどのハンデもあり、私たちが努力する割には充実した演奏会に必ずしもならなかったことも事実です。しかし、私たちはここに第10回一つの「フシ」を超えるにあたって、もう一度カイトの存在の意義を考え、それを皆様によく理解していただける市民の間の合唱団として、新しい生き方を求めてみたいと思っております。今後共皆様の御支援、御鞭撻を心よりお願い申し上げます。

カイトンサィエティ会長 須田克弘

プログラム

I. 男声合唱組曲 富士山

<草野心平詩・多田武彦曲>

- 作品 第壹
- 作品 第肆
- 作品 第拾陸
- 作品 第拾捌
- 作品 第貳拾壹

指揮 山田邦彦

II. 山田耕筰作品集

からたちの花・赤とんぼ・この道
ベイチカ・あわて床屋

合唱 長野高校合唱班 指揮 伊藤以知郎

III. 男声合唱曲集 子供の詩

<南 安雄 曲>

- きまつているのに
- おかねもちのおきやくさん
- おかあちゃんのえんそく
- うるせ
- せんせい
- せんせい
- せじゅうまる
- じ
- 白いもの

指揮 山田邦彦

伴奏 神頭千恵子(客演)

IV. カイトがつづる愛唱歌集

V. 男声合唱組曲 月光とピエロ

<堀口大学詩・清水幅曲>

- 月夜
- 秋のピエロ
- ピエロ
- ピエロの嘆き
- 月光とピエロとピエレットの唐草模様

指揮 山本昇

演奏曲目のご案内

富士山

現代詩人の中で、草野心平ほど詩人の要素を持っている詩人はないであろう。彼の詩は複雑である。しかし、そこには様々な人間感情をひきくめて不思議な美の世界が存在する。見る場所、見る時によって様々な姿に変化する富士の無限の存在をうたった詩集「富士山」の中から5つを選んで多田武彦によって作曲されたこの組曲に、私共はその多田フシの豊かな日本的抒情性とあいまって、日本人の象徴としての富士、いや日本人の心の故郷としての富士といったようなものを感じております。そんな姿を男声合唱特有のハーモニーの上に描いていただければ幸いです。

山田耕筰作品集

カイト創立以来、定演の都度賛助出演をお願いしている長野高校合唱班の今夜のステージは、日本の代表的作曲家の一人山田耕筰の曲集です。山田耕筰は三木露風・北原白秋らの詩による多くの歌曲を作曲し、それらは彼が世界した今日もなお、その歌心が日本人の胸に生き続けています。今回はその歌曲の中から特に私達に親しみの深い5曲を取りあげてお聞きいただきます。一時の低迷期からみごと脱皮し、昨年単独の演奏会をもつに至った長野高校合唱班の演奏にどうぞご期待下さい。

子供の詩

子供の目がとらえる感覚には、時にハッとするとするほど純なしてするどいものがあります。現在の殺伐とした世の中にあつて、そんな感じ方にふれる時、なにか、ほほえましく、そして清々しい気持ちになります。

子供の詩をもとにした合唱曲集は三善寛、湯山昭の「小さな日」が有名ですが、この作品も9人の小学生の詩に作曲されたものです。子供の感情をさわやかに再現している南安雄の筆さばきは見事といわざるを得ません。

月光とピエロ

戦後の混乱期のさなかの昭和23年、清水修が堀口大学の詩集「日光とピエロ」から「秋のピエロ」を選んで、全日本合唱コンクール男声合唱部門の課題曲として作曲、翌年更に4曲を加えて男声合唱組曲として発表されたこの曲は、戦後の本格的合唱曲として最初のものであり、今日の日本の合唱曲の先駆けとなつていきます。だれもが共通に持っているピエロの一面、人間の哀感をひひしと歌い、当時の人々の心に深い感銘を与えたといわれます。

堀口大学は大正時代の象徴詩に新しい官能と知性のいぶきを吹き込み、昭和近代派の先駆けをなした詩人です。

プロフィール

山本昇先生

長野高校の音楽班を一手にひきうけておられる音楽担当の教師として先生をみると、先生ほど厳しく徹底した音楽教育をなさる方は他になく、カイトの顧問、一会員としての先生は頼もしく、かつ親しみ易い好人物でおられます。昨年の先生は御多忙なことに、内はカイト、長野高校O・Bの吹奏楽、管弦楽の定演の指揮に、外はSBCアンサンブル、長野市民合唱団コーラル・アカデミー、高田木曜会合唱団等数々の方面へ幅広い活躍をなさって、私達は総じて目を見はつております。今年もこの定演を皮切りに、多くのお仕事をなさる先生に、毎回私達のためにメインステージの指揮、御指導されることに対して会員一同、感謝の念にたえない心境でおります。こんな山本先生にいつまでも信州の音楽家として、音楽教育推進に御尽力下さることを私達は願ってやみません。

山田邦彦

第6回定演で棒を振って以来、久々の登場……持ち前のバイタリティと豊かな人間性で我々を音の世界へ導びいてくれます。

全国各地へ散っているカイト会員を率いて指揮することは至難の技ですが、東京地区・長野地区の練習を司り、今日のステージになりました。

現在東京外語大に在学中。

作品第拾陸<草野心平> = 牛久のはての はるかのはての山脈の その山脈からいちだん高く黒富士 大いなるはるか黒富士
さくらんぼ色はだんだんしずみ 上天に金隅取の雲一点
<存在を超えた無限なもの> <存在に還へる無限なもの> 祈りの如きはるか黒富士